

拜啓

薄暑の候、先生方にあわれましては、ますます
ご活躍のことと存じます。

「いってきます！」

いつもの様に、友達が息子を迎えに来てくれる
日々。わずか1年前には想像も出来なかった
朝の1コマです。

息子は入学式当日から、他の子とは明らかに
様子が違いました。みんなが期待と不安
の中、それでもワクワクしている様子なのに対し
息子は母親にそばにいてくれる様に泣き
ながらせがみしました。自分で歩いて学校に
行ったのは入学式の当日だけ。翌日からは
親と一緒に行くか、車に乗っての母子登校の
日々。次第に五月雨登校になり、好きな
科目を1つ2つだけ受けて帰ってみたり、登

校日数はどんどん減って行くことになりました。

クラス担任との面談、学校カウンセラーとの面談、教育相談センターへの毎月の相談、心のクリニックを複数受診する...など、状況を理解し打開するために、親としてどうしたらいいのか彷徨いました。

学校側は「無理にでも連れて来てくれれば、いずれ改善します。まずは連れて来て」

教育相談センターは「無理はさせずに様子を見ましょう。褒める事を心がけて」

心のクリニックは「十分に甘えさせましょう。そして徐々に距離を離しましょう」(母子分離不安の診断)

学校が言う事と教育相談センターの指示が真逆で、どうしたらいいんだ? “いずれ”や“徐々に”っていつくるんだろう? と思いつつも、専門家が言うのだから、信じてその時を

待とう、と優しく接する日々を1年間。

でも、その時は全く訪れる様子はなく、むしろ息子の様子は赤ちゃん返りとも思えるほどに母子依存が進行して、親としての心配は疲労にも繋がリ、精神的に参って来ていました。

ネットや関連書籍から別の打開策が無いものか、と探る中、『無理して学校へ行かなくていい、は本当か』に出会いました。そこに書かれている内容は「我が家のことが書かれているよね」と夫婦で「大きくなずける事ばかり。まずはアクティブリスニングやアイメッセージなどを自分なりに実践してみる事にしました。簡単には出来ません。夫婦で足並みを揃えて実践する難しさがありました。1年以上経っても改善されない日々に焦りもあり、解決の糸口を水野先生の書籍に感じた事も重なり

息子が2年の夏休みに支援をお願いする事になりました。

教育相談センターや心のクリニックからの指導方針は「優しく、甘えさせて、その内に…」
ペアレンツキャンプからの最初のミッションは「家庭内を冷ます！そして期限を決めて」またしても真逆…でも信じる、信じるしか無い。間違いなく息子にとっては不思議な期間であり、刺激的な事件だったと思います。そして親としても、カウンセラーの先生の対応や佐藤先生の厳しさに、母性・父性の立ち位置をまざまざと感じさせていただけました。

登校刺激の際に息子が言ってくれた
「今まで育ててくれてありがとう」
涙をいっぱい目にためて、それでも必死に絞り出して言ってくれました。あれ？でもそれって

花嫁がいう言葉じゃない？と思う事もありますか、あの時の素直な息子の気持ちか、苦しかった日々を救ってくれた事を思い出します。

2年生の3学期をしっかりと登校させた息子。支援開始の頃は、母親がトイレに行くだけでも不安そうにしていましたし、ましてや留守番など出来るとは到底思えない状況でした。

支援を卒業したのは3年生の5月。世界はコロナウィルスで停止してしまいましたが、息子はどんどん活動の領域を広げて、校区を複数越える様な遠くまで友達と自転車で冒険に行っています。親が買い物に行く際にも平気で家で留守番をします。6月から通常に学校は再開されました。「行ってくれるか不安」な親を横目に、元気に友達と登校しています。

親として新しい心配・悩み事が増えましたか

1年前のメンメンした心配ではなく、イキイキした悩みです。任せることは任せて、親としてビシッとしめるべき事は注覚していきます。親としての筋を通して、迷ったらPCMの考えを羅針盤として、常に息子の成長の状況に合わせたバージョンアップを繰り返して、一緒に成長していきたいと思います。

最後になりますが、支援に携わって頂いた佐藤先生をはじめ、鈴木先生、高田先生、石川先生、田中先生、辻先生、本当にありがとうございました。これからも素敵な支援を全国で展開される事を、こころよりお祈りいたします。まだまだコロナウィルスの心配がある世の中ですが、お体に気を付けて頑張ってください。また、水野先生の新しいステージでの活躍も期待しております。PCMの考えを困る状況になる前から知って

いたら、と今は思います。是非全国に広げて
欲しいと思い、陰ながら応援させていただ
きたいといます。

敬具